

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	総合政策学部
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部教育活性化推進委員会のもとで複数教員の参加によるシンポジウム等を定期的に開催する	→シンポジウム等の開催回数	A	A	A		
2. 適切な特定プロジェクト研究センターの立ち上げ及び見直しにより共同研究を推進する	→特定プロジェクト研究センターの研究会等の開催回数	B	B	B		
3. 学部研究会の開催により教員の研究分野の相互理解を促進する	→学部研究会の開催回数、出席者数	A	A	A		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2011年度は2010年度に引き続き、学外においてメディア情報学科の複数教員によるシンポジウム「人・社会・自然のための情報とメディア」を7回にわたって開催した。現在、その成果を印刷中である。また、5月には総合政策研究科とともにリサーチ・コンソーシアム総会記念事業、さらに11月にはリサーチ・フェア2011を開催して、学部生等の研究成果の公開に努めた。とくに後者では、他学部・他大学の学生の参加も得て、活発な議論をかわすことで、総合政策学部の理念・目的にあった教育効果をあげることができたと考えている。
★ 目標2	2011年度には7つの特定研究プロジェクトセンターが運営されており、それぞれに成果を納めている。例えば、ユニバーサルデザイン教育研究センターは、日本学生支援機構からの委託調査「障害のある生徒の進学促進・支援に関する高大連携の在り方について」でアンケート調査等をおこない、順次、報告書にまとめて刊行中である。 将来は、特定研究プロジェクトセンターをベースにした各種研究会の開催をプロモートして、異分野の教員間の共同研究を推進させるとともに、リサーチ・コンソーシアムを通じた産官学民の共同研究を進めることを検討している。
目標3	2011年度は、学外から招いたゲストスピーカーや新任教員を中心に合計15回の講演会、4回の教員向け講演会、ならびに9回の新任教員研究発表会を開催して、相互の研究活動への理解を深めた。
備考	今後は、学部全体で異分野の教員間や、学外の諸機関との共同研究(例えば、地球環境問題、災害復興、国際開発政策等)を促進する体制を整備したいと考えている